



輝く女性のチャレンジ賞

和田 順子 氏（札幌市）

「good food, good life」代表

札幌で食育教室「good food, good life」を運営し、食を通じて「well being〜よりよく生きること」を見つめ、誰もが幸せに生きられる社会づくりを目標に活動しています。特に力を入れているのが、人や地域などあらゆるものが潜在的に持っている力を発揮することのできる場づくりです。

羽幌町では、子育て中のお母さんが持っているスキルを活かして先生となり、学び合う場「羽幌まなび」を主宰しました。その中で、漁協や農協と連携して一次産業に携わる方と交流し、地産地消や地域産業について学ぶ機会もつくりました。

その後、札幌で食育教室を運営し、幼いうちから食への関心の芽を育てたり、子育て中のお母さんの孤立感解消などに取り組んでいます。

また、いち早く食品ロス削減活動に取り組み、食材シェアパーティーである「サルベージ・パーティー®」を開催したり、食のSDGsについて考える「わたしたちと、食料システムサミット」を企画運営するなどしています。

さらに、社会全体の課題解決に取り組むため、産学連携コーディネーターとしても活動しているほか、雑誌や新聞のコラムでも発信を続けるなどチャレンジを重ねています。



輝く北のチャレンジ賞

知床スミレ・エコプロジェクト

（羅臼町）

世界自然遺産地域にある羅臼町を後世に引き継いでいくために「羅臼の女性ができること」をテーマに当時の羅臼漁協女性部長の声かけから、羅臼町女性団体連絡協議会、羅臼町漁業協同組合女性部、羅臼町商工会女性部、により設立されたのが平成18年でした。

日本一の漁業の町で、地産地消をテーマにした「知床らうす秋まつり」やふるさと納税と連動したクラウドファンディングを利用し、知床の厳しい環境で育つ花々で街を華やかにする「知床羅臼 GARDEN プロジェクト」など様々な活動を通して、学び合いながら女性の活躍とまちづくりの参画に取り組んできました。

各家庭から排出される廃食油や米の研ぎ汁を再利用し、環境に優しい石鹸を完成させた「おさかな石鹸」は、デザインやストーリーにこだわり、羅臼町のシンボルマーク型の土産物として会員自ら製造・販売しています。「活動」から「手仕事」へをキーワードに「今できる。」を見つけて、町民とともに女性の社会参画活動を行っています。

